2025 ヒロシマ市民の描いた

原爆絵画展

1974 年一人の被爆者が描いた被爆体験の絵画をきっかけに、多数の被爆体験の絵画が集められました。現在では広島原爆資料館に 4000 点以上の絵画が所蔵されています。これらの絵画はヒロシマ市民の手による原爆被害の記録であり、核兵器のもたらすものを現代に生きる私達に訴えかけてきます。本展では絵画数十点を展示します。

場所：所沢市役所1階　市民ギャラリー
（航空公園駅東口徒歩3分）

日時：8月5日（火）～7日（木）

午前9時～午後5時（5日は午前11時から、7日は午後4時まで）

連絡先：「所沢りぼん法律事務所」04-2938-1012

※専用駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用下さい。
※選挙等により中止または期間が変更になることがあります。

主催：原爆絵画展所沢実行委員会
後援：埼玉県・埼玉県教育委員会・広島市・長崎市
所沢市・所沢市教育委員会・青少年育成所沢市民会議
所沢市社会福祉協議会・入間市・狭山市・丸木美術館
NHK さいたま放送局・テレ玉・ＦＭ ＮＡＣＫ５・埼玉新聞社
朝日新聞さいたま総局・毎日新聞さいたま支局
東京新聞さいたま支局・琉球新報社
※現時点で申請中の団体もございます。

・入場無料・

展示される絵画は毎年異なります。
以前ご来場の方も、新しい絵画をご覧になれます。

会 場 案 内

原爆絵画展へのメッセージ

埼玉県原爆被害者協議会（しらさぎ会）
副会長　髙橋　溥

八十年前のあの日、夏の高く青い青い空から太陽が降ってきた。
一瞬白い光、太陽の中に包み込まれただろう強烈な光、私の座る小さな部屋の全ての形は白い色で消えた。
生まれ出て二か月ばかりの弟に添い寝する母と三歳の妹の奥の部屋は爆風で押しつぶされ、屋根・梁で埋まった。
その時、広島は平らな灰色の原野となっていたのです。
かばった母の背骨は落ちてきた梁で傷つき、結核菌で侵され脊髄カリエスで死んだ。

熱線は皮膚の細胞を溶かしました、腕から指先から垂れ下がる皮膚の皮。
熱線、猛火で黒く焼けこげた無数の積み上げられた人型。
猛烈な熱風「かまいたち」で眼球は飛び出し、腹は裂け内臓はたれた。
七本の川を肉色の死の人型が埋め尽くす、潮の満ち干で流れ、戻され。

放射線は、内臓を溶かし赤い血に変え口を埋め吐出し命奪い、母たちのお腹の小さな命を並みの人の形でない形に変えた。
憎い放射能は生き残った命の生涯の恐怖の暗い霧となったのです。

アインシュタインの$E=mc^2$は地球を地獄にする核兵器となつたのです。
生老病死、生き終わるまで何人も人の命は絶ってはいけない、殺してはいけない。
生きとし生けるものの地球を壊してはならない。
2017年7月7日核兵器禁止条約が採択され2021年1月22日に発効されました。
亡くなった人たちの思い、ヒバクシャの長い間の思いがやっと条約として言葉になりました。
そして昨年のノーベル平和賞の受賞。
I believe in future 時間がかかるも、若者の歌の様に核兵器の無い未来を信じましょう。若者たちのためにも。

※埼玉県原爆被害者協議会（しらさぎ会）は、埼玉県在住の被爆者の会で、2024年ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会（被団協）の構成団体です。